



# AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

発行・横浜スペイン協会事務局 鎌倉市大船 1709-18 FAX 0467-44-5876

2011年より駐日スペイン大使として来日され、当協会の名誉会長をお引き受けいただきましたミゲル・アンヘル・ナバロ大使閣下が、この度無事任期を終えられました。離日にあたり当協会宛にメッセージをお送りくださいました。また、新駐日スペイン大使 ゴンサロ・デ・ベニト・セカデス閣下(His Excellency Mr.Gonzalo De Benito Secades)より着任のご挨拶が届きました。

2014年11月30日、東京

謹啓 本日付で駐日スペイン大使としての任務を終え、離日しますことを謹んでご報告申し上げます。

貴国での滞在は思い出深いものとなり、各スペイン協会のご尽力により、そして特に横浜スペイン協会のスペインに対しての困り絆と友情の表れにより、両国の関係がこの4年間で前進したことも大きな功績として残りました。

また貴殿ならびに貴協会の皆様方にあたたかくお迎え頂き、感謝致しております。

あまりお目にかかれる機会がなかったのが残念ですが、お伝えした通り、他の業務も入ってありましたため、その願いが通わなかったことが心残りです。

私の後任にも同様に、貴殿ならびに貴協会のご支援とご鞭撻のほど願えますと幸いです。

この機会に貴協会に最高の敬意を表し、ご挨拶申し上げます。

謹白

ミゲル・アンヘル・ナバロ

駐日スペイン大使

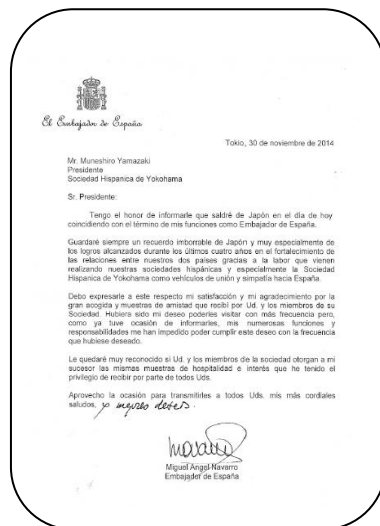
駐日スペイン大使に就任し、始めてのご挨拶ですが、この度は横浜スペイン協会の皆様に日本とスペインの関係強化にご尽力いただいておりますことにお礼申し上げます。駐日スペイン大使館と致しましては、これまでと同様に、横浜スペイン協会や国内に点在する全てのスペイン協会との協力を続けて参りたく思っております。

横浜スペイン協会会長の山崎宗城様はじめ会員の皆様にも日本においてのスペイン文化の普及に努めてくださり感謝いたしております。

駐日スペイン大使館では、本年緑り広げられます貴協会の活動がスペイン文化の促進につながり、多くのことを分かち合う両国の社会がより一層近づきますことを、スペイン大使館としても切に願っております。

ゴンサロ・デ・ベニト

駐日スペイン大使



## ●スペイン語クラス

今回のクラス紹介は「ハスミンクラス」です。

開講日 : 月曜日 (月 3 回) 13:00~14:30

担当講師 : 山田 るり子先生

現在生徒数 : 10 名 (女性 8 名、男性 2 名)

講座内容 : 10 月より山田先生のオリジナルテキスト「サヨナラ、棒読みスペイン語！」を用いて、生活や旅行での場面の会話を演習。最終目標は、和訳を見て瞬時にスペイン語で口にさせるようにすることです。



たまたま見学に来ていた 3 人が全くの入門者であったため、協会の F さんに急遽立ち上げていただいたのがハスミンクラスです。最初の授業は 10 階のオープンスペースでした。(綾小路きみまろ口調) あれから 30 ヶ月あまり！！時間ばかりが経ち、入門の域を脱出するのに悪戦苦闘している私たちですが、山田先生の温かく熱いご指導に引っ張られ、時に背中を押され、いつしかスペイン語圏の方と流暢に話せる日を夢見て、研鑽に励んでおります(クラス委員 臼井慎一)

入門用のテキストを 1 冊終え、知識の定着と「使えるスペイン語」へのステップアップを目指して新しいテキストで頑張っています。会話を主体としたテキストのためスペイン語の学習だけでなく、それぞれのスキットに出てくる土地の歴史や文化の話、受講生の土産話など横道にそれ、そちらの方が盛り上がりしてしまうこともしばしばです。スペイン語に再チャレンジしてみたい方にもおすすめのクラスです。お喋りをしに来るつもりで、ぜひ見学にいらしてください。

(山田るり子)

## 「スペイン語で新聞、雑誌を読む会」の特別講義の報告

演題 : 「アルゼンチンの歴史と文学—早足探訪」先コロンブス期から現代まで

講師 : セシリア・シルバ先生 (東北大学講師)

日時 : 2015 年 1 月 24 日 (土) 万国橋会議センター

アルゼンチンの最初の住民は、パダゴニアの南端から移動してきたと思われるアジア民族です。明確な歴史としては 16 世紀のスペイン植民地時代から始まり、1776 年にはスペイン副王領となり、キリスト教、スペイン語、カースト制が導入されました。1810 年 5 月には副王を罷免し、1816 年 7 月 9 日には独立宣言がなされ、スペイン帝国の支配は崩壊します。1824 年連邦国家である今日の República Argentina が誕生します。1853 年に憲法が成立、1862 年に最初の大統領が選ばれました。1880 年—1916 年は保守的共和制の時代と言われ、国際社会の中で農産物の輸出国としての地位が確立されました。第一次世界大戦、第 2 次世界大戦共に参戦しなかったアル



ゼンチンですがその歴史は度重なる国内の軍事クーデターの連続であり、フアン・マヌエル・デ・ロサス、フアン・ペロンとエビータの時代を経て現在のクリスティーナ・デ・キルチネル大統領の時代に繋がります。文学としては、 gaucho 文学の傑作ホセ・エルナンデスの「マルティン・フィエロ」、20 世紀のサバト、ボルヘス、コンタサル等の名前が列挙されました。(山崎宗城)

## ●スペイン・サロン

### \*スペイン音楽観賞レポート

2014年12月20日(土) 柳 貞子クリスマスコンサート No. 29  
～クリスマスに愛と平和を～ 音楽の友ホール



神楽坂にある音楽の友ホールにて、柳 貞子クリスマスコンサートを観賞した。共演者は、ギター柴田杏里氏と武井裕晃氏、ピアノ・編曲は美野春樹氏、ヴァイオリン篠崎正嗣氏、チェロ結城貴弘氏、業界屈指の一流アーティストだ。CD 発売記念も兼ねたコンサートで、「82歳のポートレート～カルメンから喝采まで」と題されたCDは、歌手・柳貞子の人生ソノモノであり、数々の困難と病を克服し、今もなお平和を願い、愛の歌を歌い続ける“魂”が込められている。コンサートでは、それが音霊・言霊となって飛んでくる。第一部は、雪の精霊を彷彿させる真っ白なドレスで登場。「聖夜」を皆と一緒に。続いて「ベツレヘムの鐘」、「聖母の御子」をスペイン語と、本人訳詞の日本語でも歌唱。民謡「プンチャ、プンチャ」は、国を追われたセファルディー達の望郷の念…海の向こうの故郷に思いを馳せ、プンチャ…プンチャ…の詞が波の音に聴こえる…との解説には胸を打たれた。第二部は本人お手製の鮮やかな花柄ドレス。約50年前に渡伊、やがてスペインで売れっ子歌手と成った時代を生き生きと語り、「すみれの花売娘」「カタリ」を柳節で熱唱。歌謡曲「喝采」もクラシカルに歌いあげ、「鳥の歌」を全身全霊で奏でた。後半に



行くほど声も乗り、「ラ・パロマ」「ハバネラ」が最も艶やかに響いていた。CD ジャケットの表紙デザインは、ご息女の創作画。愛する歌を、愛する者たちに届ける姿からは、年を重ねる愉しさと、時代を生き抜く喜び、情熱を持ち続ける生命の力強さが感じられた。是非、「世界遺産歌手」を目指して、米寿、白寿まで歌い続けるご活躍を願いたいものだ。(桜田ゆみ)

### \*スペイン サロン「スペイン料理を作って食べる会」に参加して

2014. 12. 14@神奈川地区センター

横浜スペイン協会のイベントに初めて参加しました。「スペイン料理を作って食べる会」は美味しいものを食べるのが大好きな私にピッタリのデビュー企画でした。世代を超えて、和気あいあいと楽しめるクッキングクラス。初めてお会いする方がたとお話はずみ、美味しいものを共有できる素敵な時間でした。4つの調理台に並んでいるのは食材をご用意してくださった方に大感謝の新鮮な魚貝と色鮮やかな野菜の数々、食欲をそそります。講師の丸山久美先生は有名なスペイン家庭料理研究家、笑顔のとっても素敵なチャーミングな方です。先生のわかりやすい説明を聞きながら、お料理の手順と作り方を頭に入れて、さあ、スタート！どのグループもチームワークばっちりです。4種類のお料理が見事完成しました。どれもこれも美味しい！ スペインワインと合わせて最高のマリナーージュを楽しみました。美味しい～ 楽しい～ の大満足イベントに感謝、感謝です。素敵なひと時をありがとうございました。(大戸尚美)



## ●シネマサロン

昨年の秋から新年にかけて、次のような映画がありました。

「アンナプルナ南壁 7,400m の男たち」2012年、スペイン映画  
「グロリアの青春」2013年、スペイン・チリ

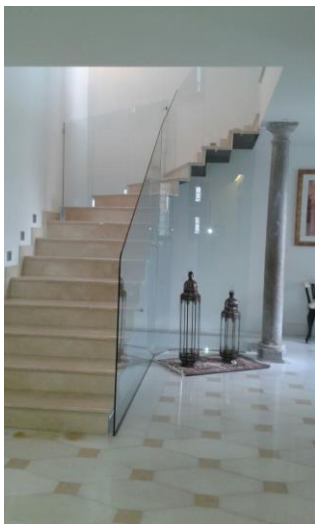
「白夜のタンゴ」2013年、ドイツ・フィンランド・アルゼンチン  
Viviane Blumenschein 監督（フィンランド）

タンゴはアルゼンチンで生まれたとアルゼンチンの人も世界の人もそう信じているが、フィンランドの映画監督アキ・カウリスマキをはじめとしたフィンランド人は異をとらえていた。その真相を確かめようとアルゼンチンの3人のタンゴミュージシャンがフィンランドへ旅立つ。森と湖、そして輝くような白夜に魅せられ、未知の世界を実感する。シャイで寡黙なフィンランド人と交流し、彼らが奏でる自分たちのとは違うタンゴに触れていく。やがて白夜のセッションでフィンランドの国民的タンゴ歌手レイヨ・タイバレとの夢のような共演で盛り上がる。アキ・カウリスマキはこの映画にも出演していますが、自身の映画「街のあかり」(2006年)の中でアルゼンチンの Carlos Gardel (1890~1935) の歌を使っていました。この映画のオープニングでアキ・カウリスマキは、「Volver」(帰郷)、そしてタイトルバックで「Día que me quieras」(想いの届く日)を歌わせています。彼はやはり以前からフィンランドのタンゴにこだわっていたのでしょうか。(松本益代)



## ●スペイン便り

スペイン人はどんな家に住んでいるのでしょうか。実に人それぞれですが、お友達の家に招待されて、わあ、素敵。とため息をつくことの多いこと！スペインの伝統的な家や家族に代々伝わる家具をあえて超モダンな家具とミックスさせて、大胆で個性的な空間を演出をしています。日本にも上陸した ZARA HOME はスペインで大人気。スペイン風と言っても、イビサ風、アンダルシア風、バルセロナ風など皆個性が違います。今日はグラナダのアルバイシン地区にすむ友人ベアトリスのお家を紹介します。アラブの残り香の漂う神秘的なこの地区はグラナダの旧市街の中でも超人気のエリア。私も大好きな地域で、通りすがりに貸家の看板を見ると、「細すぎる迷路のような路地と勾配の激しい坂の多さ、ピアノ搬入するのは大変そうだなー、ハイヒールでお出かけする時はどうしようー」と毎度いらぬ心配をしています。ベアトリスはこの地区の典型的な3階建のカルメン(小別荘の意)に住んでいます。様々な種類の明るい色の大理石、力強いダークな色調の木材、鉄細工、現代的な要素のクリスタル、アルバイシンらしい要素を残しつつモダンに改装。そして窓から臨むアルハンブラ宮殿。テラスの一つには、オシャレなブティックホテルのようなプライベートプールとスリーピングチェアもありますが冬でカバーがしてあり割愛しました。春になるとテラスで生ハムとワインをつまみつつ友人達と歓談。アルハンブラ宮殿がバラ色に染まりグラナダ中の鐘の音が鳴り渡る夕刻時は言葉にならない美しさです。(素人の撮った写真ですみません) 外からだちょっと想像できませんよね！(西澤安澄)



## ●旅でスペインを識ろう会

2014. 12. 8@県民サポートセンター

12月のスペイン・サロンは“愛しのセビリア”の演題で開かれました。照明を消した室内の大きなスクリーンにセビリアの春祭りの光景が写し出されると、その華やかさに私共も現地で祭りの最中にある心地で忽ち惹き入れられました。スペイン三大祭りの一つであるセビリアの春祭りは前夜祭を含めて七日間開催され、開催日は毎年異なるとか。約1000のカセタというテント、カセタ・プブリカは四つ造られ、カセタの内部にはキッチンがあり友人、知人ももてなす場になっています。フラメンコギターに興味があったのか、フラメンコギター片手の観光客である演者は幾つかのカセタに招き入れられ、もてなされ、果ては幾つものカセタでフラメンコ衣装の美女群に囲まれ記念撮影。黒一色の男性一人が色とりどりの大輪のバラの花に囲まれた如く見事な写真は、女性が見ても羨ましい光景で満場が幾度も喚声に包まれました。祭りで飲む酒はヘレス、音楽はセビリアナス一色、フェア開催中午後3時頃から夕方まで馬や馬車が繰り出し、フラメンコ衣装を着飾った女性達は馬車に乗り乗馬服姿の男性と会場を練り歩きます。馬上の男性のダンディな事！白馬さえその馬体、顔の優雅な事に見惚れました。フェア最終日は午前零時に花火で打ち上げとなります。その後はマカレーナ地区の希望の聖母、トリアーナ地区の希望の聖母と星の聖母と崇められるお三方の美しいマリア様像をスクリーンに拝して幕を閉じました。

これぞ“愛しのセビリア”と思える光景の数々にスペイン愛好の念を強め、当日は師走にも拘わらず立見席まで出る盛会となりました。（船山晴子）

## \* 新年親睦会に参加して

2015.2.7@波止場会館

スペインで、最初に訪れた地がロンダだった。欧州に初めて輸出する車のテストドライブコースを探しての旅だった。コスタ・デル・ソルの海岸沿いの国道から、うねるような山道を登り切った所にロンダはあった。ヌエボ橋から深い渓谷を覗き、闘牛場を過ぎ、市街を抜けた先に突然に荒野が広がっていた。所どころ土肌が剥き出しの見渡す限り荒れた草原、生けるものの気配はどこにもなく、ただ日常にはない怖いほどの静寂。見上げると、空は手が届きそうなほど低く、すぐそこにあった。神はこんなところに降りてくるのだろうか、ふとそう思った。ロンダの荒野での思い出は、私のスペインへの想いの原点である。それから三十数年、横浜スペイン協会に入会させていただくことになり「ロンダの桜」のお話をうかがい、その縁に驚いた。



今年は新年親睦会に参加させていただいた。和気藹々とした雰囲気の中、多くの方々が、合唱・舞踏・スペイン語等日頃の活動の成果をご披露されるのを楽しく拝見した。沢山の美味しいお料理とワインをいただきながら、酔った頭で突然こんなことを考えた。「果たしてスペインの人達は、遙か離れた極東の地日本に、スペイン好きな人がこんな風に集まって、スペインに想いを馳せていることを想像したりするだろうか？ もし知ったらきっと喜ぶだろうな。

そして向こうにも日本を好きな人がいて欲しいな」と。考えてみれば、海外とのコミュニケーションは長い間私の仕事であった。皆さんの想いに触発され、今度は草の根の交流で少しでもお役に立ちスペインへの想いを形にしたいと思った。横浜スペイン協会は創立25周年とのこと。地域の草の根の活動が25年も続くというのは稀有な事だと言う。運営に携わってこられた方々のご尽力は言うまでもないが、会員の方々の継続的な活動への参加、そしてそれぞれの方のスペインへの想いの賜物ではないかと思う。会場の波止場会館からの帰り、横浜の風に吹かれながら思った。「来年は見る側からやる側になろう！」（中村隆器）

## \*\*\* 新会員紹介 \*\*\*

丸山 久美 (Kumi Maruyama) 東京都杉並区在住

年末の「お料理サロン」の講師をさせて頂いておりますスペイン料理研究家の丸山久美です。いつも大変お世話になっております。

皆様の活動に大変興味があります。是非入会させて頂き、イベントなどに協力、参加させて下さい。

公式ホームページ : <http://9339.jellybean.jp/www/c.html>

ブログ : <http://k-maruyama.blogspot.jp/>

昼間 千津子 (Chizuko Hiruma) 川崎市宮前区在住

ケーナを習っていた頃、度々スペイン語の歌詞が楽譜についていたので、少しスペイン語を習ってみたいと思ったのがスペイン語との出会いです。こちらの協会は友人からの情報で知りました。スペインへ二度、メキシコへ一度、ほんの短い旅行をしました。これからこちらでたくさんの事を学んで、また行ってみたいと思います。

### \*\*\*\*\* 事務局からのお知らせ \*\*\*\*\*

先日2月7日(土)に恒例の新年親睦パーティーが盛会のうちに終わることが出来ました。前号でお知らせいたしました。今年協会の創立25周年目ですので各種催しを企画しております。まず、横浜スペイン協会定時総会のご案内をさせていただきます。

#### 横浜スペイン協会 2015 年度定時総会

日時 : 2015 年 5 月 9 日 (土) PM13:00~

場所 : 神奈川県立かながわ県民活動センター 1501 号室

上記総会まで、まだ約2か月の日数がありますが、一年間の活動実績及び活動計画に興味をお持ちの方は是非お気軽に参加してください。

## 賛助会員各社の会員サービス内容

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より表記のサービスが受けられます。

賛助会員	住 所	電話番号	会員サービス内容
カサ・デ・フジモリ 関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア 1杯無料
Bar Español	カサ・デ・フジモリ 関内本店前	045-651-1074	サングリア 1杯無料
カサ・デ・フジモリ 目黒店	JR目黒(東京) 徒歩5分	03-5420-5328	サングリア 1杯無料
(有) フレア	鎌倉市大船2-17-8	0467-42-8531	押し花体験費用割引
日西商事 (うさぎのいる島)	東京都港区台場2-2-1 サ・クルズ・ダイバ 1F	03-5531-2151	生ビール一杯無料

<編集後記> 今年は創立25周年。最近、協会の活動が活性化して理事たちは寝る間も惜しんで毎日大忙し。ホームページも充実し、スペイン語教室に興味を持たれる方からの問い合わせも増えてきました。広報担当として紙面とホームページの更なる充実を図ります。乞うご期待！(下山利明)

編集委員 石井加奈弘 桜田ゆみ 澤田真人 下山利明 千葉博子 福長昭代 真木幸子 山崎宗城

\* 投稿寄稿宛先 〒247-0056 鎌倉市大船 1709-18  
横浜スペイン協会会報係 e-mail : [info@yokohama-spain.jp](mailto:info@yokohama-spain.jp)  
横浜スペイン協会 URL <http://www.yokohama-spain.jp>

次回原稿締切は  
**6月10日(水)**です。  
投稿は550字以内、写真をお付け下さい